

高山岩男 いづみ いわお 哲學者、文學博士。明治二十八年四月十八日山形縣  
生れ、平成五年七月五日没（一九五一年）。昭和二年京都帝國大學文學  
部哲學科卒。西田幾多郎に師事し、同大助教授となる。戰時中、高坂  
正顯、西谷啓治、鈴木成高等と所謂「京都學派」を形成。二十年教授  
も、翌年八職追放に遭ふ。うち神奈川大學教授、日本大學教授を経て、  
四十九年東海大學教授。

著書 『西田哲學』（昭和十年四月、二十五日岩波書店）、『哲學的人間  
學』（昭和十二年六月十日岩波書店）、『續西田哲學』（昭和十五年  
五月二十八日岩波書店）、『世界史の哲學』（昭和十七年九月二十日  
岩波書店）、『哲學年鑑』（共編、第一卷、昭和十七年版、第二卷、  
十八日、昭和十八年版、第三卷、十九年一月二十日大阪・靖文社）、『世界史  
の立場と日本』（合著・藤田親吉編、昭和十八年二月二十五日中央公  
論社）、『世界觀の戦心』（合著・大日本言論報國會編、昭和十八年  
九月一日同盟通信社「日本思想戰叢書」）、『八紘爲宇の精神に就く  
て』（昭和十九年一月二十日海軍大學校講究録「海大講」）、『現代  
哲學の課題』（昭和二十二年五月二十一日大阪・秋田屋）、『西田寸  
心先生片影』（島谷俊二共編、昭和二十四年一月十五日愛知・黎明書  
房）、『西田先生とその哲學』（合著・鹿野久恒編、昭和二十四年四  
月二十日石川・西田幾多郎先生頌徳記念會）、『哲學用語辭典』（昭  
和二十五年七月二十日弘文堂「アテナ文庫」）、『世界危機と現代思  
想』（合著・山本新編、昭和二十九年四月二十日理想社）、『袖武  
天皇紀元論―紀元節の正しき見方』（合著・日本文化研究會編、昭和  
三十一年二月二十一日花書房）、『文明の哲學・没落の問題をめぐ

32『

(昭和四十九年十月二十日)東海大学出版会(等)。